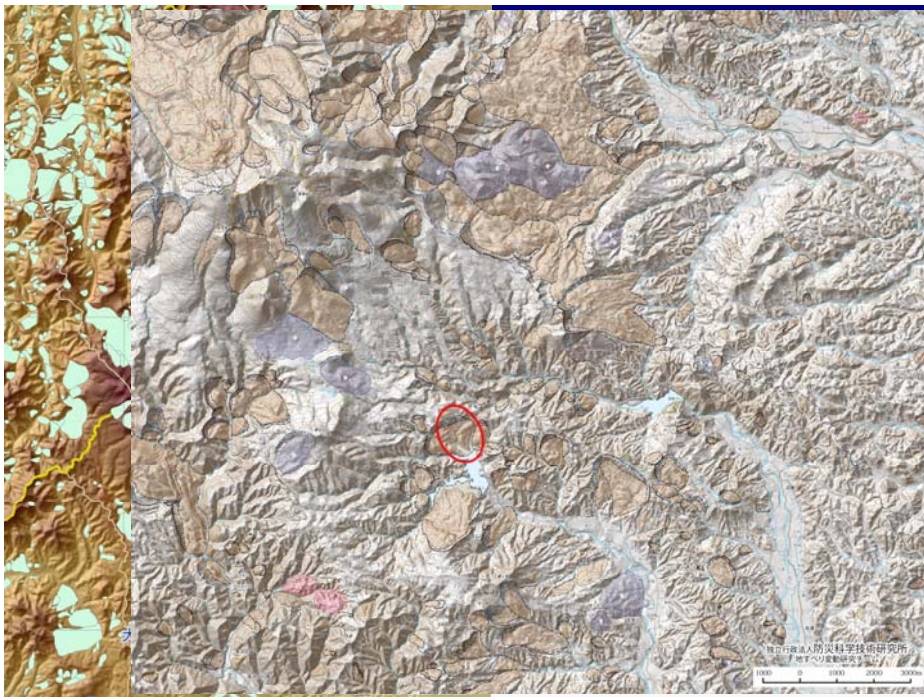
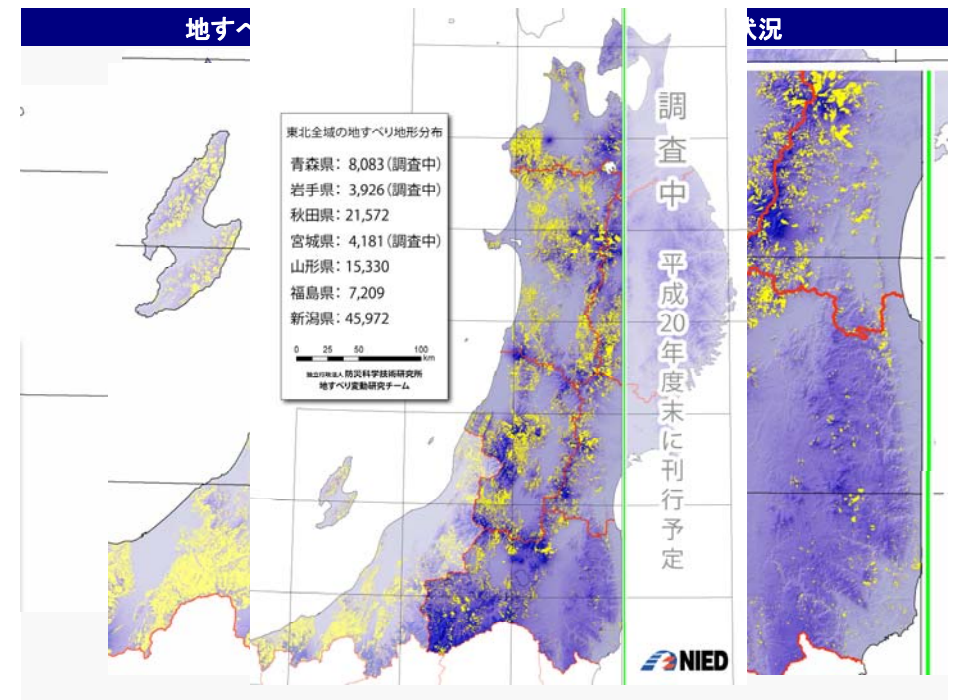


# 岩手県・宮城県内陸地震 地すべり災害 調査報告

1. 地すべり地形と地すべり災害の関連
2. 荒砥沢ダム上流の大規模地すべりについて
3. 斜面崩壊などの分布状況

東北学院大学 地域構想学科  
宮城豊彦



## 荒砥沢ダム上流に生じた巨大地すべり



(国土地理院  
HPより)

# 巨大地すべりの地形構成状況

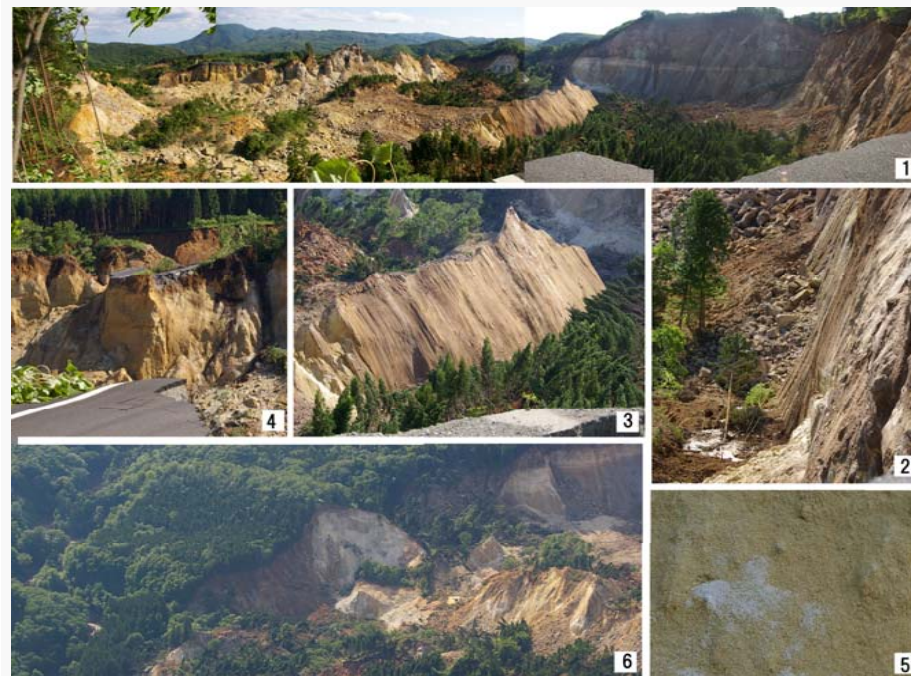
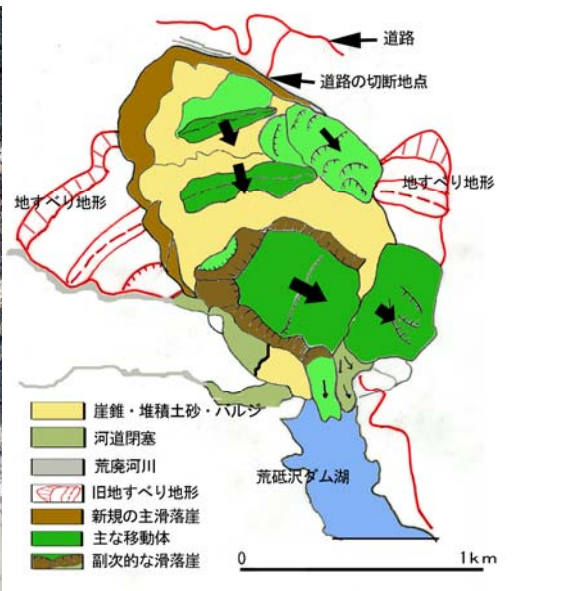


## 全域規模

全長1.3km、  
最大幅0.9km、  
滑落崖最大比高148m

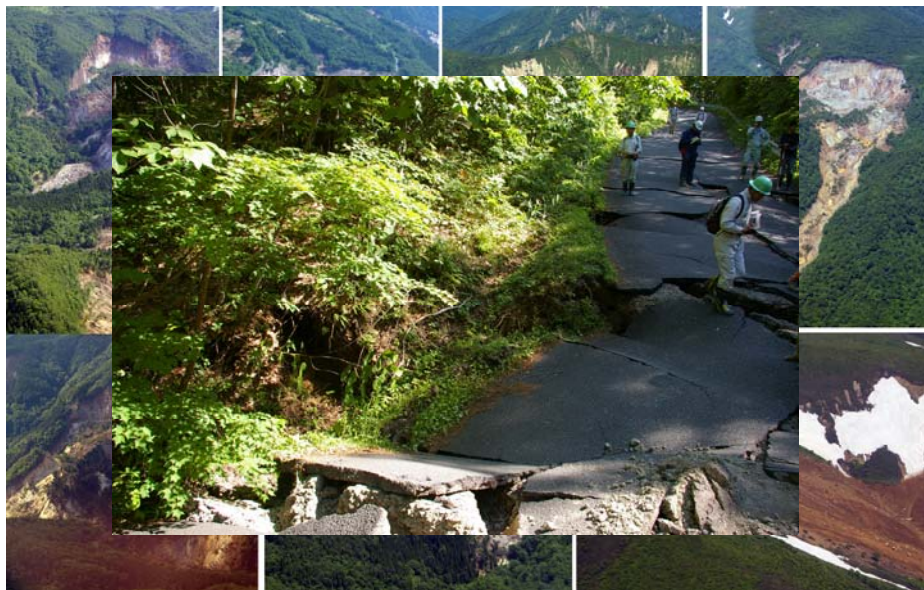
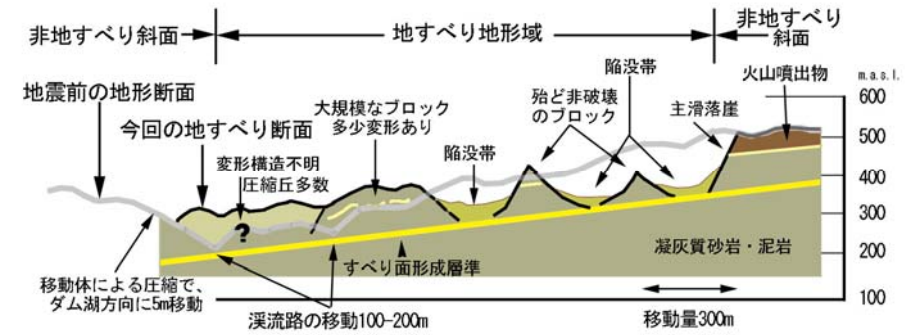
## 発生域規模

全長1.0km、幅0.7km  
最大移動層厚150m  
移動土砂量7000万m<sup>3</sup>



## 移動体先端部に発生した大規模な泥流の移動・堆積状況

1. ダム湖に流入した泥流堆積物、2. 流動域の末端の尾根越え  
3. 流動域下部は、谷壁に土石流痕、4. 流動域上部から崩壊域。  
更に上流の移動体先端部と衝突された丘陵との境界付近で土砂崩れが生じ、泥硫化した。5. 流下途中に粘性土の皮膜が形成された（流動に伴う擦痕が明瞭）



空から見た栗駒山周辺の変動状況と地すべり地背後の妙な変位

## 地すべり関係のまとめ

- 防災科研(つくば)や本学会などが、地すべり地形の分布調査を行っている。今回の地すべり斜面変動も、地すべり地形との関連が強く指摘された。地すべり地形の把握と評価に基づくハザードマップを作り、斜面防災に役立てることが重要であることを今回も示唆された。
- 特に、荒砥沢ダム上流の巨大地すべりも地すべり地形の再活動であった。その規模は移動土量で7000万m<sup>3</sup>。日本最大規模。すべりはブロックグライド。
- この他にも、10箇所以上の大規模地すべりが確認され、斜面変動は予想以上に多く、地震断層の上盤側に集中していた。